地震から火災を防ぐ感震ブレーカー

過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、火災の被害が多く発生しています。東日本大震災による火災は、原因の特定されたもののうち、５割以上が電気に起因したものでした。

イラスト・写真出典：総務省消防庁動画より

地震後の電気火災がおこる事例

① 大地震の発生



② 分電盤のブレーカーを落とすことを忘れる



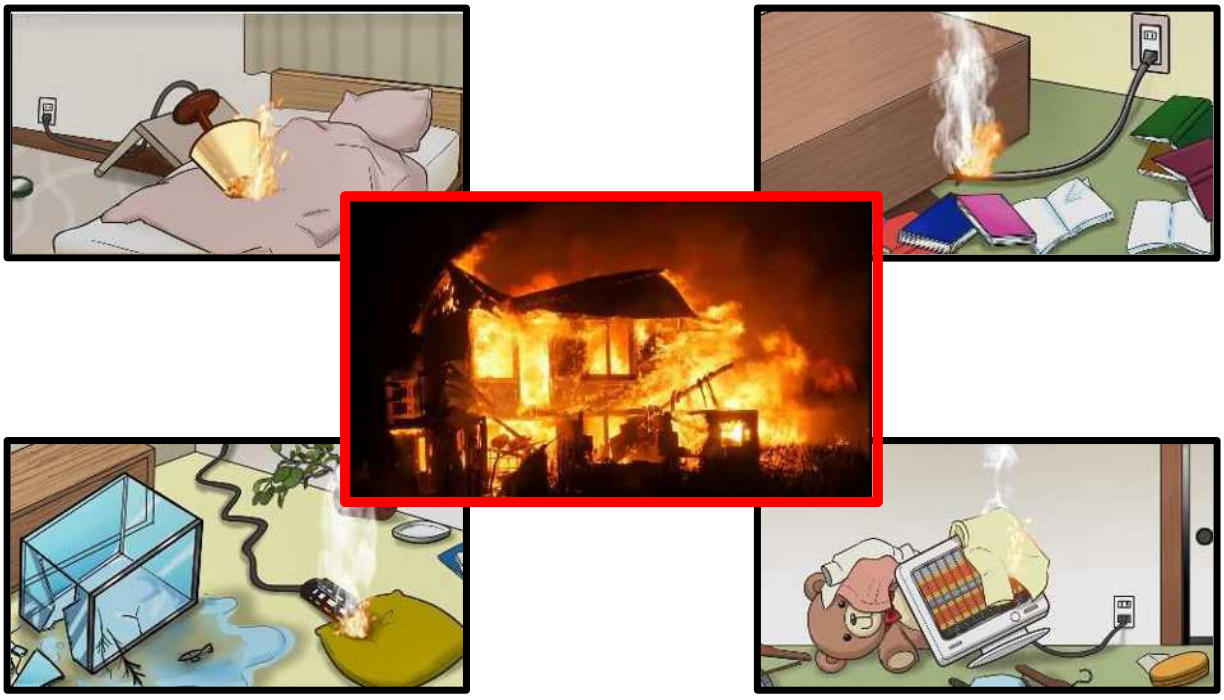
③ 避難所等へ避難



④ 停電状態



⑤ 避難所等へ避難中に停電が復旧し通電たものの無人のため出火



地震から火災を防ぐためには・・・裏面へ

宮前消防署・宮前防火協会

知っていますか？感震ブレーカー

地震から火災を防ぐ防ぐポイント

● 自宅を長時間離れる（避難所等への避難）際は、分電盤のブレーカーを切る（オフにする。）。
ブレーカーを切ることを忘れそう・・・分電盤が高い位置である・・・物が崩れて分電盤までたどり着けないかも・・・等
そんな場合は地震の揺れに応じて自動で分電盤のブレーカーを落とす設備（感震ブレーカー）の設置を推奨しております。

感震ブレーカーの主な種類


分電盤タイプ
内蔵型


分電盤タイプ
後付型


コンセント
タイプ


簡易タイプ

電気工事が必要な設備

これらの分電盤タイプに関するものは電気工事士等の資格が必要な工事となります。
お近くの電気屋さんや契約している電力会社等にお問い合わせください。

ご自身で設置する設備

コンセント後付けタイプや分電盤に設置する簡易タイプについては、ご自宅の状況や、購入したものが設置できるかなど判断した上で製品を選んでいただくこととなります。

※火災被害を軽減する製品は多くありますので、購入前に取り付け条件（コンセントにアースが必要…、分電盤のスイッチが露出しているか…など）やメリット・デメリット等（例えば…地震直後に停電となるため、夜間の避難に備えて足元灯（乾電池式など）や懐中電灯など照明器具が必要…、医療機器等を使用されている場合は予備電源（バックアップ電源）を準備する…など）を十分検討した上で設置するようにして下さい。
火災を軽減する製品の概略は（一社）日本配線システム工業会のホームページなどを参考にご確認下さい。

日本配線システム工業会
ホームページ
各種製品はQRコードから

消防庁ホームページ
電気火災に関する
動画はQRコードから

宮前消防署・宮前防火協会